

令和6年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価	学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	
学校運営	学校運営	【学部・研究科等と連携、実践的な実習・研修の場の提供、全国・地域における先導的な教育モデルの開発、成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】	①中等教育に係る研究組織体として、研究組織と校務分掌組織との連携性強化、教職員間での学校が目指す教育ビジョンの共有。 ②学校経費の節約に努め、戦略的かつ戦略的な教育モデルの開発に向けて予算の獲得を強く要望している。	①教育ビジョンを共有し学校運営を円滑にするため、運営委員会、校務分掌会議、教科会議、学年会議を学期中にはそれぞれ週1回開催する。 ②安全で快適な教育環境の整備、先導的かつ戦略的な教育モデルの開発に向けて予算の獲得を強く要望している。	①中等教育に係る研究組織体として各校務分掌、学年、教科において週1回会議を開催し、教育ビジョンの共有と研究組織と校務分掌組織との連携を行った。 ②令和5年度校内和式トイレの多くが洋式化改修されたが、洋式化全面改修に向けて継続して要望した。また、難病生徒の学力保障のため、遠隔授業整備をすすめている。	A	①②多様なニーズを持つ生徒が快適に学ぶことができるサポート体制が整えられている。ダイバーシティの考え方が当たり前という認識を学校だけでなく社会全体で作っていかないといけないだろう。 熱中症のリスクが高まり、教育環境整備は重要。生徒の命を守るために体育館への空調設置の必要性が高まっている。急務である。	①②合理的配慮のもと、生徒への配慮とサポート体制を整え、生徒、教職員がダイバーシティの重要性を深く理解できるように、本校でできることを進めたい。 熱中症リスクの高まりから体育館への空調設置の必要性が急務である。予算の獲得を強く要望する。
	人事	【学部・研究科等と連携、実践的な実習・研修の場の提供、全国・地域における先導的な教育モデルの開発、成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】	教員研修プログラムを策定して交流人事や教員研修の機能を高めるとともに外部研修への参加を促進し、教員の職能成長を推進する。	ミドルリーダーが活躍できる会議運営を行い、教員としての資質能力を向上させる。また、研修会への受講、他校の教育研究大会への積極的な参加の促進、研修会講師等を積極的に引き受け、教員の職能成長を推進する。	現在の組織の状況を踏まえて、ミドルリーダーを中心としたメンター制度を導入した学年運営、校務分掌運営を図っている。また、キャリアステージごとの資質能力をもとに研修プログラムを実施した。すべての教科において多くの教員が学会参加、発表等による教科に関する研修等、主体的に職能成長を図っている。	A	学校運営の現状を踏まえて人材育成をされている。メンター制度を導入することは、学校全体の教育の発展に貢献する素晴らしい取り組みである。 学会参加や発表を通じて教員の職能成長、学校全体の教育の質を向上とすることを期待する。	ミドルリーダーを中心とした学校運営を行い、学校全体の活性化と人材育成の質の向上を図る。主体的な学会参加、研修への参加を推進、新たな研究やプロジェクトの機会、取り組みを通じて、教員の職能成長を図る。
	広報	【学部・研究科等と連携、実践的な実習・研修の場の提供、全国・地域における先導的な教育モデルの開発、成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】	①教育研究大会の開催、刊行物の発行、Webページの活用等により、先進的、先駆的な研究推進校としての教育・研究活動を広く発信、提供。 ②入学希望者に対する学校広報の推進。	①教育研究大会(11月)、SSH成果発表会(2月)の開催、研究成果や研究紀要等刊行物のWeb公開により、成果発信する。 ②学校説明会、学校案内を創意工夫して入学希望者へ情報提供し、少子化の時代にあっても入学希望者を現状維持、下回っても昨年比5%以内に留める。	①SSHの実践をはじめとして、教育研究大会の記録、授業実践事例等、実践研究成果をWebページで広く公開している。 ②高等学校の学校説明会は6月と9月に各1回開催し、6月約400名、9月約200名の参加があった。中学校の学校説明会は9月に3回開催し、合計約1900名の参加があった。説明会では、学校紹介と在校生のインタビューによって本校の魅力への理解が深まった。また、キャリアステージごとの資質能力をもとに研修プログラムを実施した。すべての教科において多くの教員が学会参加、発表等による教科に関する研修等、主体的に職能成長を図っている。	B	①教育実践、刊行物を学校Webページに公開し、広報活動が充実している。 ②少子化が進んでいる。成果の評価としては、少子化を反映した評価基準の立て方、評価規準の見直しを検討する必要がある。学校説明会は参加者から高評価されている。その中でも、在校生が自分のことばで学校の魅力を伝えており、より説得力のある情報提供がなされているので効果的である。	①学校Webページを通して教育実践、研究開発の成果を継続して公開することで、教育関係者へ学校の教育活動を発信したい。地域の人々に対して学校の活動を発信していきたい。 ②学校説明会の内容の充実を図り、入学希望者や保護者が学校の魅力を感じられるようにしたい。
	PTA等の諸組織との連携	【全国あるいは地域における先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】	①教育環境充実への人的支援を主な目標とするPTA活動の充実。 ②教育環境充実への財政的支援を主な目標とする教育後援会との連携強化。	①保護者と学校の協力による研修会を年1回以上開催し、PTA広報誌は年3回発行する。年度末の学校評価(保護者)学校評価アンケートにおいて「学校の楽しさ」等に関して肯定的回答80%以上を得る。 ②教育後援会役員会を年3回開催して参考となる意見を集約し、教育環境の充実に資する予算執行を進める。	①全附P連全国大会(9月)へPTA役員、中附P連広島大会(11月)へはPTA役員と教員が参加し、他校の取り組みと成果について共有した。体育祭(6月)では、PTAによる観覧者の人員整理により体育祭の円滑な運営への協力、文化祭(9月)ではPTAが保護者交流を目的として「サン・ド・FZK」を企画・運営し、盛況であった。PTA広報誌「むつみ」は計画通り年3回発行した。「学校の楽しさ」に関して保護者の肯定的回答は91%であった。 ②教育後援会役員会は年3回開催し、全国組織から今年得られた新たな共有し、教育後援会のあり方、教育環境改善を図ることができるよう意見交換を継続している。	A	①PTAと学校との連携は非常に良好で、質の高い教育環境が充実している。文化祭、体育祭等学校行事において、PTAによる協力、運営支援を得て円滑な実施ができていた。文化祭PTA企画における生徒の声を集めたメッセージボードは、入学希望者へ学校の魅力が伝わるもので、高評価である。 ②教育後援会との連携は、教育環境の充実に向けて適切な予算執行につながっている。	①今後も保護者と教員との研修を深め、PTAと学校との連携・協力関係を一層強化することで、生徒に対するサポート体制を充実させたい。進路に関する情報提供、SNS上でのトラブルに関する社会の情報をもふまえてPTAと連携して取り組む。 ②教育後援会との協議を定期的に行い、教育環境の改善を図ることができるよう支援を受ける。
教育活動	学習指導	【国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める。】	①国際標準の学力育成を目指すための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める。 ②キャリア教育の充実、資質育成による進路実現の支援。	①授業を充実させ、学校評価(生徒)アンケートで「授業の理解、学習内容、学習評価等」に対する肯定的回答80%以上を得る。 ②大学、地域、企業、アカン会の協力を得て、キャリア支援を図る講座や行事を実施し、学校評価(生徒)アンケートで「進路指導の充実」に関して肯定的回答80%以上を得る。	①SSH研究開発を基礎として探究的活動の充実した学習指導を進めた。「授業の理解、学習内容、学習評価等」に関して生徒の肯定的回答89%であった。高校3年の生徒が化学グランプリ2024銀賞を受賞した。SSH課題研究では第68回日本学生科学賞、科学技術振興機構賞受賞等、優れた評価を得た。 ②アカシア会からの絶大な支援により本年度もキャリア講座を実施し、生徒のキャリア意識を向上させている。「進路指導の充実」に関して生徒の肯定的回答81%であった。	A	①学習指導に関する生徒の肯定的評価、高い満足度が得られている。SSHの推進、先導的なカリキュラムの導入により主体性のある高度な能力の育成がなされていることが受賞につながっているのだろう。 ②キャリア教育は、社会に出た自分の姿に想像を膨らませる、進路を決める、夢を描く助けになる大切な取り組み。アカン会をはじめ、大学、企業からの協力がなされ、進路実現に向けた取り組みが充実している。	①全人教育の実現を図るとともに、学習目標の達成度を適切に評価し、その分析を通じた学習指導研究、カリキュラム開発研究、評価方法研究(ルーブリックなど)を展開する。 ②アカン会、大学、企業等からの支援、ご協力をお願いし、多様な職種や業界についての情報を提供することで生徒が視野を広げられるようキャリア教育の充実に向けて取り組みたい。
	生徒指導	【国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める。】	①生徒が有意義な学校生活を送るように、生徒会活動を支援。 ②社会的ルール遵守や規範意識の向上を図る生徒指導の充実。	①生徒が主体的に活動する生徒会行事の運営を支援し、学校評価(生徒)アンケートで「学校行事・生徒会活動」に関して肯定的回答80%以上を得る。 ②各学期末のアンケート、日常の生徒観察などからいじめ訴えの実態把握に努め、いじめ防止委員会を毎月開催して情報共有、対応にあたる。学校評価(生徒)アンケートで「先生への指導」に関して肯定的回答80%以上を得る。	①生徒会の主体的な運営を支援し、「学校行事・生徒会活動」に関して生徒の肯定的回答93%であった。 ②いじめ対策基本方針を全教員で確認するとともに、共通理解を図っている。各学期末に行うアンケートだけでなく、日常的な生徒観察などからいじめ訴えの把握に努め、いじめ防止委員会を開催して実態把握、対応にあたっている。いじめに限らず、生徒の状況をつかむことを第一とし、生徒たちの悩みや思いを聞き取る力を個々の教員が持てるよう研修を行っている。研修では、心が傷つくプロセスとそのケアについて学び、それを生かして生徒指導に役立てている。「先生への指導」に関して生徒の肯定的回答87%であった。	A	①学校行事・生徒会活動に対して高評価である。一方、部活動への評価は低い。HR教室には空調が設置されているが、体育館には空調設備が整っていない。生徒の活動における熱中症リスクへの対応として体育館に空調設備が整うように。 ②いじめ防止委員会が定例開催され、生徒の実態把握と共有、先生方による適切な対応ができていた。教員の指導に対する肯定的回答は高く、公平な学習指導、生活指導がなされている。	①自由・自主・自律の精神についての自覚を高め、生徒会活動の充実を図る。体育館への空調設備設置等、生徒の安全な教育環境設備のめ、継続的に大学へ強く要望を行う。 ②いじめ防止員会の開催だけでなく、継続的にいじめを早期に発見し適切な組織的対応ができるよう取り組む。生徒指導に関する課題予防的指導にとどまらず、授業や生徒会活動の場面とつながった発達支持的生徒指導をすすめる。
	保健指導	【国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める。】	スクールカウンセラー等の専門職も含むチーム学校として、心身ともに健康な学校生活の実現を図っている。	保健室から年3回の「保健だより」等に基づく保健指導を行い、生徒会保健委員会による「保健新聞」年2回発行の活動等も支援する。学校医、スクールカウンセラーとの連携を強化し、スクールカウンセリングは週2日実施、スペシャルサポートルームは週2日開設。学校評価(生徒)アンケートで「悩みへの相談」に関して肯定的回答80%以上を得る。	心理的課題を抱えている生徒は多く、生徒相談の充実を図り、担任面談は全クラスで定期的に行っている。学校医、スクールカウンセラーとの連携を強化し、個々のケースを会議し、必要な支援をチームで考えている。「保健だより」発行等も計画通り実施し、健全な学校生活を支援する保健指導を行っている。さらに、薬物乱用を根絶する規範意識の向上を目的に専門家による薬物乱用防止教室を開催するなど、外部専門家からの支援も充実させた。「悩みへの相談」に関して生徒の肯定的回答86%であった。	A	学校長による強力なリーダーシップのもと、スクールカウンセラーなど、生徒たちの心身の健康をサポートする盤石な体制が整えられている。生徒の実態、生徒の家庭を取り巻く状況を知ること、生徒と教員の定期的な相談の機会もいつも相談にのってもらえるきめ細やかな相談活動、態勢があるが、ティーチングスタッフが足りているかが心配である。	①②心身ともに健康な学校生活の実現を図る。ストレスや悩みを抱えている生徒の実態を把握した上で、スクールカウンセラー、SSR指導員と教職員との連携を強化し、ストレスの軽減、気持ちを受けてとめてもらい取り組みを進める。SCによる相談日を学校Webページへ公開、保健だよりによる紹介などにより相談体制を周知し、生徒一人ひとりが心身ともに健康な学校生活を送ることが出来るよう生徒相談を充実させる。

注) □ 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

令和6年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
教育実習	教育実習	【人間社会科学研究科教職開発専攻(教職大学院)及び教師教育プログラム教員等と教師教育や教員研修・教員養成のあり方について検討する。】	①大学との連携・協力の実質化に向けて、教育実習実施の具体的方策を提案。 ②教育実習生の教科指導力、授業力を向上させ、教職に対する高い使命感を涵養する教育実習の充実。	①大学との連携・協力の実質化に向けて、教育実習連絡協議会に年3回参加し、教育実習の成果と課題に関して意見を提出する。全教科で、大学教員の訪問を受けた授業協議等を各1回以上実施する。 ②各教育実習生が教育実習終了後の自己評価において授業力向上等に関する肯定的評価80%以上を得る。	①大学との連携・協力の実質化に向けて、教育実習連絡協議会において意見を提出している。教育実習生に生徒理解の機会を設けるため、各教科の授業に加えて、学級活動を担当させている。全教科において、大学教員の訪問指導を受け、授業協議を行っている。教育実習生が、教員になりたい動機をさらに高めるよう実習の方法、評価方法について、具体的な方策の検討が必要である。 ②教育実習終了後の自己評価において授業力向上等に関する肯定的評価99.9%(令和6年6月)、96.6%(令和6年9月)であった。	A	①②教育実習生の自己評価において授業力向上に関する肯定的評価が高評価である。教育実習生の評価は高いが、生徒から見る教育実習指導の評価はどうだろうか。 生徒の実態に合わせて実習生の課題を明確につくみ、大学と共有し、力を合わせて教職に対する高い使命感と教育への情熱にあふれた人格の育成を図ってほしい。	A	①②大学と連携・協力して教育実習指導の方法や評価方法について具体的方策を検討し、教員志望への動機を高める。実習生の教科指導力、授業力を向上させることで生徒の実態に合わせた指導ができるようにしたい。
	研究開発 (スーパーサイエンスハイス クール)	【スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業、研究開発学校としての実践研究、大学教員と連携・協力した教育研究活動等を一層推進する。社会に開かれた科学技術を先導する人材育成の起点となる科学教育カリキュラムの開発等の成果を我が国の初等・中等・高等教育の水準を向上させるために全国に展開する。】	①「イノベーティブな科学技術人材育成の起点となる国際的に通じる科学教育カリキュラムの開発の研究開発」SSH先導的改革型第1期2年目の研究開発を実施。 ②「科学教育カリキュラム」の高度化、国際化にむけて高大連携・接続を推進。 ③SSH事業の成果の普及を図る。	①カリキュラムマネジメント、STEAM教育の視点から科学教育プログラムを開発するため、学校設定教科「iSAGAs」を中心に実践。教材やシラバスの再整理を行い、イノベーティブなを意識した指導を展開する。 ②広島大学より「課題研究」支援として学生を派遣していただき実験指導のサポートを行う体制を整える。また、広島大学APを高大接続の科目として学校設定科目に入れた。これまでの広島大学の教養科目に加えて、理学部の専門科目も受講できるようにした。 ③中国地区のSSH指定校の担当者等と交流を通して、成果の普及・展開、SSH事業の活性化を図る。 「SSHの取り組み」に関して肯定的回答80%以上を得る。	①課題研究を通して育成したい資質・能力を育成する学校設定科目「iSAGAs」を中心に実践している。課題研究を「はじめる」、「進める」、「深める」の3段階に分けて指導のあり方や評価ルーブリックを示した既刊の課題研究指導書「広大メソッド」の充実を図る改訂を行った。 ②広島大学理学部より、物理、化学、生物、地学の課題研究に学生を派遣していただき、特機的に実験指導等のサポートを行う体制を整えた。 ③SSHの取り組みに関して、生徒の肯定的回答94%、保護者の肯定的回答96%であった。 ④令和6年度中国地区SSH担当者交流会を主催し(6月)、本校のSSH学校設定科目の授業公開、および「SSH事業による特色ある教育課程編成」をテーマに協議を行い、今後の発展と方向性に向けて検討を進めている。	A	①SSH事業として課題研究の深化を中心に「広大メソッド」「高大接続・高大連携」「海外連携」等に取り組み、十分成果を上げている。②「課題研究」支援として大学から学生が派遣され、高大連携の充実が図られている。実学的な学部等からの派遣、大学との連携、協力を広げていくことができれば、さらに発展につながるだろう。他校や海外の生徒等、学外との研究交流の機会を効果的に活用して、興味深い研究が行われ、学びに対する自主性が発揮される取り組みであると評価する。大学との協働による高大連携・接続プログラムは学年の約1/4にあたる生徒が履修しており、学びの深化が期待できる。③教員研修会として、SSH校の教員が集まり事例発表で各学校の取組、開発した教材等の共有を行う等、成果と課題を共有していることを評価したい。	A	次年度はSSH先導改革型第1期最終年度において、SSH事業を確実にすすめる、研究開発の効果の検証および評価を行う。SSH事業を学校全体に普及させ、持続可能なものとするため、第IV期で開発した科学教育カリキュラムに工夫を加え、SSHプログラムをすべて教育課程に位置づけている。科学教育カリキュラムの高度化や国際化、課題研究の深化に向けて広島大学APをさらにすすめ、高大接続のモデルを実践的に研究し、高大連携の一層の充実を図る。海外連携校(韓国2校、タイ1校)との交流を深めながら課題研究を発展させていく。『サイエンスフェア2025』を開催し、3か国合同課題研究発表会を行う。
先進的、 先駆的な 研究推進	国際交流	【国際標準の学力を育成するための先進的な次世代カリキュラムの開発を進める。研究開発等の成果を我が国の初等・中等・高等教育の水準を向上させるために全国に展開する。】	グローバルマインドの高揚を図り、海外連携校との交流事業を計画、実施。海外連携校とのアジア科学教育コンソーシアム構築の基盤を構築。	海外連携校3校(韓国2校、タイ1校)との交流プログラムを年3回以上実施し、「課題研究」の交流活動を行う。令和7年7月、本校主催「アジア科学教育コンソーシアム」構築に関する提案、協議を行う。学校評価(生徒)アンケートにおいて「学校全体の国際交流」に関して60%以上の肯定的回答を得る。	海外連携校との研究交流や協議を行い、SSH先導的改革型第1期最終年次(令和7年度)での3か国合同課題研究発表会「アジア科学教育コンソーシアム」開催への基盤づくりが進んでいる。韓国やタイの連携校との研究交流は、韓国(天安中央高等学校)へ訪問(7月)、タイ(プリンセスチュアボーン・サイエンスハイスクール)へ訪問(7月)、タイ(プリンセスチュアボーン・サイエンスハイスクール)構築に関する提案、協議を行う。また、韓国(ムンサンスオク高等学校)からの訪日研修(11月)、韓国(チョナンチュンチュン高等学校)からの訪日研修(1月)、タイ(プリンセスチュアボーン・サイエンスハイスクールムクダハン校)からの訪日研修(2月)を実施、科学共同授業や課題研究交流、ポスター発表を行った。「学校全体の国際交流」に関して生徒の肯定的回答85%であった。	A	海外連携校と課題研究の研究結果の発表と議論等の高度な研究交流活動が行われている。研究交流に参加した生徒の評価は高く、グローバルな視点を獲得する機会となっていることを評価する。交流体験を保護者や次年度の生徒へ伝える機会があれば次年度の生徒の取り組みにも貢献できるだろう。アジア科学教育推進コンソーシアムの構築による「サイエンスフェア2025」実施により、海外連携校と連携した課題研究や共同授業が他のSSH校における科学研究の深化の模範となることが期待される。	A	海外連携事業を通して、研究開発の課題を共有し国際的な視野で課題研究に取り組む。広島大学と高大連携・高大接続による「高等学校におけるアジア科学教育コンソーシアム」の構築に向けて組織づくりを行い、「サイエンスフェア2025」の実施、国際的に通用する科学教育カリキュラムに発展させる。
	中等教育研究 開発	【研究開発等の成果を我が国の初等・中等・高等教育の水準を向上させるために全国に展開する。】	「カリキュラム・マネジメントを志向した学びの価値の創造(2)―探究を中心とした学び続ける主体の育成―」を研究主題として、実践研究を実施。教育研究大会を開催し、授業公開、研究発表、研究協議を実施し、授業づくりを提案。校内研究授業を各教科で年2回以上授業研究を実施。	各教科で育成する資質・能力を明確にし、各教科の授業と「総合的な学習(探究)の時間」、「課題研究(探究)」との相互連携に向けた取り組みとその工夫について学校全体で検討。教育研究大会への公立学校からの参加者数や意見、Web公開資料の閲覧数等、一定程度の数を得る。科研究奨励研究にも応募を推奨して2件以上の採択を得る。	課題研究のあり方は評価ルーブリックを示した「広大メソッド」を用いた課題研究指導が定着し、その指導方法を各教科の指導に援用できるようになった。各教科と「総合的な学習(探究)の時間」、課題研究との往還をしながら進める学習を展開している。教育研究大会(11月)には校外から約300名の参加を得て、充実した研究協議を行った。教科別および全体での校内研究授業は計画通り実施した。令和6年度は科研究奨励研究に校内で4件が採択された。	A	各教科ならびに通教科的な視点から様々な教材開発と教育実践を積み重ね、研究大会においてその成果を広く発信できている。研究成果の活用が期待される。日本の教育の拠点として、全体の教育のレベルを上げるようさらに外部への発信をすすめてほしい。	A	本校の中等教育研究開発のテーマを「カリキュラム・マネジメントを志向した学びの価値の創造」としてSSHの研究開発と連動させることで、総合探究、教科探究の往還を目指した取組を進めてきた。教育研究大会での公開授業や研究発表等を通して、10年後の学習指導要領改訂を先取りした各教科ならびに探究学習等の通教科的な教育研究実績を積み上げ、全国をリードする研究開発を推進する。
	学部・附属学校 共同研究	【学部・研究科等と連携し先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】	学部・附属学校共同研究プロジェクトにおいて、本校教員が代表となるプロジェクトに応募し採択を目指す。	本校教員が代表の2か年計画共同研究プロジェクトに令和5年度は2件採択されているが、令和6年度も新たに応募して2件以上の採択を得る。	令和6年度採択のプロジェクトは、大学全体で新規採択14件のうち2件が本校教員が代表のプロジェクトであった。大学教員と他地区の附属学校教員と共同で先進的な実践的研究を行っている。令和5年度採択のプロジェクトとともに、研究を進めている。	A	大学、他附属学校園の教員との連携により、先進的な教育研究開発の実践が積極的におすすめられている。	A	広島大学、附属学校間との先進的な教育研究開発プロジェクトをすすめる、その成果発表を推進する。
グローバル教育 推進	ユネスコ教育	【国際標準の学力を育成するための先進的な次世代カリキュラムの開発を進める。】	ユネスコスクールとして国内外の機関と連携し、ユネスコ活動を行う生徒会、班活動を支援。SSH、SDGsに関わる教育を研究・推進し、持続可能な社会を先導するためのカリキュラム開発を推進。	ユネスコ協会関係等の対外行事に参加、ユネスコスクールとしての活動を対外的に報告し、適切な評価を受ける。学校評価(生徒)アンケートにおいて「環境問題、国際理解、平和学習の学習の機会」に関して60%以上の肯定的回答を得る。	平和公園碑巡り、慰霊追悼の集い、平和の鐘を鳴らそう、への参加、外国人向けパンフレット作成と他校への碑巡り案内等の活動をしている。これらの活動実績が高く評価され、第10回「広島県ユネスコESD×SDGs大賞を受賞し、授賞式において生徒が実践発表を行った。『環境問題、国際理解、平和学習の学習の機会』に関して生徒の肯定的回答75%であった。	A	ユネスコスクールとして国内外の機関と連携した活動をしていることを高く評価したい。平和学習を中心とし、学際的で多角的なユネスコ教育の学びを精力的に推進している。ユネスコ班、ユネスコ委員の活動は広島大学の学校として大切な取り組みであり、ダイバーシティにつながるものである。生徒主体のユネスコスクール活動のあり方として一つのモデル事例となることを期待する。	A	日本で最古のユネスコスクール加盟校として、平和学習を中心としながらも多角的なユネスコ教育の学びを推進する。ユネスコ班、ユネスコ委員会を中心としてユネスコスクール係の活動、地域と連携したSDGs活動をさらに推進し、グローバル化に対応した教育の思想及び構造を策定し、成果を発信する。

注) ☐ 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。